

第3章

地域の課題に応じた取組

おはま 2 尾崎市尾浜地区 18 年度採択



活動テーマ

地域通貨「おう」の発行

地区の概要

尾浜地区は、尾崎市のほぼ中央に位置し、尾浜商店街を中心とした下町情緒のある地域です。近年、地域リーダーの高齢化や地元商店街の衰退などにより住民同士の結びつきが弱まってきたことに対する危機意識から、地元商店街を中心に地域通貨（「おう」）の発行・流通による地域活性化をスタートするとともに、地域あがてのイベント（夏祭り）を開催するなど、地域コミュニティ・連帯を再構築するための取組をしています。

これまでの成果

地域通貨「おう」を広めるイベントを開催し、地域経済の活性化を図るほか、「親子ふれあい広場」や「高齢者ふれあい喫茶」をはじめ、地域住民のニーズに応じた事業を展開し、住民交流、ボランティア活動への参加促進などの面で成果があがっています。

地域において、「助成が5年間に限定されることで、地域が一丸となって自立に向けてがんばれる。5年後は地域自治組織を立ち上げたい」と地域の自立運営に向け意欲的に広場事業に取り組んでおり、広場事業が地域の自立運営へのきっかけとなっています。



地域の課題

< 活動の充実 >

地域コミュニティ、地域経済の活性化に向けて、ユニークな取組が必要だと考えています。

地域の課題

< 活動資金の確保 >

助成終了後の自立を考えた場合、年間の活動費に見合う収入は確保できていません。

地域の課題

< 人材の発掘・育成 >

広場を運営していく上では、担い手の育成が大切であると考えています。



【尾浜商店街】

その取組として

地域経済の活性化策として、地域通貨「おう」を流通させています。「1おう」を100円として、尾浜商店街の約50の協力店で利用できるようになり、現在、1万6千「おう」が存在しています。

また、地域通貨を広めるため、これまでに5回、物品販売、パレード、フリーマーケットなど取り入れた地域通貨OH（おう）イベントを開催してきました。

その取組として

一定の収益を得られるような方法を工夫しており、継続的には、収益をあげています。今後、地域の活性化のために、地域キャラクターグッズの開発・販売を検討していきます。各種イベントの出店、物販の定期化なども計画していきます。

その取組として

地域の各団体の責任者で運営委員会を構成していますが、そのもとに事務局をつくり、事務スタッフを確保し、実際の事業実施について、それぞれの事業の分担制をつくっています。当初は、事業単位での責任分担はできませんでしたが、現在では、できるようになっています。

連絡先 : 尾浜地区県民交流広場地域推進委員会 TEL / FAX 06-6427-3386

3 宝塚市西谷地区 17年度採択



活動テーマ

自然と共生する地域づくりのための「西谷環境サミット」の開催

地区の概要

西谷地区は、自治会、婦人会、NPO法人など二十数団体によって地域推進委員会を構成し、当地区の美しい自然を守り、親しみ、活用する運動を地域全体で取り組むことにしています。

地域の豊かな自然を生かし、「みつばち教室」や「ボタン講座」等のほか、湿原や里山の保全など、西谷の自然の中で活動したメンバーが、それぞれの活用や成果の発表と交流を深め、「自然と共生する地域づくり」について考える「西谷環境サミット」を開催しました。

これまでの成果

新たな活動がはじまるとともに、ボランティアグループの結成や他の公共組織との連携ができるようになりました。

また、講座修了後もグループによる活動が継続しており、活動のリーダーも育ちつつあります。

西谷地区まちづくり協議会は、美しい西谷の自然を守り親しみ、活用する運動を進め、自然の保全と環境の美化を地域全体で取り組みます。



地域の課題

＜ 地域への愛着づくり ＞

地域づくりの第1歩として、住民が郷土に愛着と誇りをもつことが必要です。

その取組として

地域の財産である人材と自然を生かして交流できる広場づくりを行っていききたい。そのため、地域内だけでなく地域外からも参加してもらえ、プログラムづくりや情報発信を念頭に活動を行っています

地域の課題

＜ 活動資金の確保 ＞

地域の活性化に向けて、講座等をできるだけ継続的に実施していききたいと考えています。

その取組として

講座等を魅力のある内容にするとともに、参加講師謝金、会場費、交通費等の講座開催経費は、参加者から参加費を徴収し、それに充当しています。

地域の課題

＜ 人材の発掘・育成 ＞

個人の思いを表現し、最初の一步を後押しする人材育成に取り組まなければならないと感じます。

その取組として

企画の段階から参加してもらい、意見や思いを相手に伝え、力を合わせて事に当たっていくことを体験してもらっています。活動を通じて面白さを見いだせる雰囲気づくりが大切です。



【めだかの学習会】



【みつばち教室】

連絡先 : 西谷地区まちづくり協議会 TEL / FAX 0797-91-1788

4 高砂市^{あらい}荒井地区 17年度採択



活動テーマ

「よってこ村・荒井」での「元気な地域と仲間づくり」

地区の概要

民間企業より無償貸与を受けた施設を新たなコミュニティづくりの活動の拠点として「よってこ村・荒井」を開村しました。村長、副村長をはじめ、総務大臣や教育大臣など、7人の大臣を置いています。「ごらくのへや」での囲碁、将棋、「ほんのへや」での子供への読み聞かせの他、七夕飾りやお月見等の昔からある行事の実施、敷地を活用した農園での野菜づくり、児童絵画工作展覧会やちびっこクラフト展、県内の農村地域との交流を行った冬の村まつり等の行事を開催しています。

これまでの成果

住民の交流のための「ごらくのへや」では、毎日、囲碁、将棋に多数の高齢者が押し掛け満杯状態。

「ほんのへや」では、子供への読み聞かせのほか、週4回の図書貸し出しをしています。

七夕祭りやプロ野球観戦、村民の作品展、流しそうめんを楽しむ催しなどに、多くの住民に参加いただくなど、地域内の交流が活発化していきました。

高齢の方や障害のある方への対応として実施した「秋祭り屋台鑑賞会」は、評判が良く、参加いただいた方から御礼の返事が多く寄せられました。



地域の課題

＜ 活動資金の確保 ＞

今後も継続した活動を実施していくため活動資金の確保が重要だと考えています。

その取組として

光熱水費や消耗品費を確保するため、利用料金の徴収を検討するほか、朝市、フリーマーケットの参加費の徴収、施設内での飲食営業、出前イベントでの物品販売等での収益確保に大変苦勞しています。

地域の課題

＜ 人材の発掘・育成 ＞

地域のスタッフをどのように育てていくかが大きな課題となっています。

その取組として

行政をはじめ地域の自治会や民意の団体・組織、地元企業や事業者などで「よってこ村応援団」を結成していただき、人材、物資、場所などの応援をいただいています。

地域の課題

＜ 情報の発信 ＞

地域内で活動を広めていくため、情報発信が大切だと考えています。

その取組として

2カ月に1回、村発行の「かわら版」を地区に全戸配布（4,500部）しているほか、行事前には「臨時号・回覧版」（1,000部）を発行しています。なお、行事の企画は4カ月前に確定しますが、それから「かわら版」作成や発行準備、財源確保、配布方法や時期等に大変苦勞しています。



【本の読み聞かせ】



【グラウンドゴルフ】

連絡先 : よってこ村・荒井運営会 TEL 079-442-8843 (火・木・土・日)

5 加西市^{うに}宇仁地区 20年度採択



活動テーマ

宇仁の里・花畑街道 コスモスまつりによる地域の活性化

地区の概要

地域の文化や産業を活性化し、ふるさとの再生を推進するため、平成20年2月に、宇仁郷まちづくり協議会を設置しました。

八王子地区コミュニティセンターを拠点として、広場の活動テーマを、「宇仁校区子育て支援」「宇仁の朝市」「宇仁の里花畑街道」に定め、これらに重点を置いて事業を展開しています。

これまでの成果

少子・高齢化が進む中、世代間のより一層の交流、都市との交流を通じて地域に活力を取り戻そうと、地域住民が手作りで菜の花やコスモスなどの花畑街道づくりとそれとあわせたハイキングやスタンプラリー、地元農産物の販売などを行うイベントを進めています。

この他、中高年の農業の「技」を生かした朝市の立ち上げ、地域住民ボランティアによる預かり保育や学童保育などの子育て家族支援、地域ぐるみの見守り活動を実施しています。



地域の課題

〈 活動資金の確保 〉

活動を継続させていくための工夫を検討しなければならぬと感じています。

その取組として

地元農産物の販売などの朝市を軌道にのせつつあり、その収益金を活動費に充当することとしています。

地域の課題

〈 人材の発掘・育成 〉

広場の運営や活動の展開を持続的に実施しなければならぬと考えています。

その取組として

協議会がスタートして、まだ2年であるため、今のスタッフが、初心を忘れず頑張っています。
なお、リーダーの年齢が、65～70歳であるので、今後、若い人たちをどのよにして協議会に呼び込むか考えていかなければなりません。

地域の課題

〈 組織運営の確保 〉

活動の活性化のためには、いろいろな人の意見を大切にしなければなりません。

その取組として

意見交換の場を増し、全員が課題を共有し、その解決策をみんなで考え実行することにより、やりがい、いきがいが高まり、実践力がつき、成果が生まれてきています。



【宇仁の朝市】



【菜の花ハイキング】

連絡先 : 宇仁郷まちづくり協議会 TEL 0790-45-1751(山本) FAX 0790-45-1711

6 神河町^{はせ}長谷地区 19年度採択



活動テーマ

地域ぐるみでスーパーを運営

地区の概要

長谷地区は、高齢化の進展のため、地区内で支えあっていく必要を強く感じていました。そこに、日常生活、ふれあいと交流の拠点であったJA兵庫西のマーケット長谷店とガソリンスタンドが閉鎖され、高齢者や障害者等の生活が大きく変貌することになりました。

そこで、安全・安心な生活基盤を守るために、住民自らが店舗の経営に取り組むこととし、H20年7月に『村営ふれあいマーケット』と、地域のたまり場『ふれあい会館』を新築オープンさせ、生活環境を守る拠点として、安心して暮らせる地域づくりをスタートさせました。

これまでの成果

県民交流広場活動を通じた単位集落を超えた協力、助け合いのもと、活動・交流ができるようになり、ふれあい喫茶だけでなく、地域の農産物を地域の方々に提供するための農産物の即売市（ふれあい市場）も実施し、農家の生産意欲の向上のきっかけにつながりました。また、ふれあいマーケットの運営が、品物の売買だけでなく、人と人のふれあい、お互いに元気を分け合う憩いの場になってきています。

ふれあい喫茶は、8集落の内1つまたは2つの集落が毎月持ち回りで担当しています。毎回100名以上のおもてなしを行うのは大変ですが、地域の皆さんが楽しみにしている交流の場を大切にしていること、地域住民が一丸となり協力しながら実施しています。

ふれあい市場を開催は、結果として、マーケットでの試験的な委託販売へとつながっています。安定的な販売体制が確立されれば、生産者の意欲がより向上すると思います。

21年度からは、老若男女問わず交流を楽しめる事業として、「ほたる祭り」と「もの作り教室」を計画・実施しました。



地域の課題

< 人材の発掘・育成 >

ボランティアのほとんどが高齢者で、活動の継続が困難になりつつあります。

その取組として

若い世代に関心を持ってもらい、積極的に活動へ参加してもらえる取組を目指し、活動に参加していただいている団体の皆さんとの交流の中から活動の継続を考えていきたいと思っています。

地域の課題

< 組織運営の確保 >

集落単位でふれあい喫茶の運営を決めたが、集落規模が大小であるため、その実施が難しくなったグループがありました。

その取組として

ふれあい喫茶を楽しみに待っているお客さんがいることから、大きな集落が小さな集落を助けることにより、月に1回ずつ実施することができました。今後は、地域の若い女性も巻き込んで実施していきたいです。

地域の課題

< 情報の発信 >

地域住民が主役となって楽しめるコミュニティづくりを目指し、地域住民が交流できる企画を考えていく必要があります。

その取組として

ほたる祭りなどの行事を企画していくと同時に、写真展や集落の出来事などを載せたニュースの発行など、情報発信をしていきたいと考えています。



【ふれあい市場】

連絡先 : 長谷地区の振興を考える会 TEL 0790-35-0001 FAX 0790-35-0736

あいおい
7 相生市相生地区
17 年度採択



活動テーマ

空き店舗を世代交流の拠点に

地区の概要

高齢者の生きがい・交流の機会づくりのため、地域の中心に、毎日訪れる場所として「あいあいひろば相生館」と「あいあいひろばおお」を整備し、気軽におしゃべりできる場を提供しました。また、まちかどギャラリーとして、地域住民が制作した絵画や陶芸などの展示のほか、七夕祭りや相生懐古いろはかるた大会など子ども向けの事業、認知症勉強会等の講演会を行っています。更に、市内の看護学校の学生との交流会を月2回程度開催し、若者と高齢者が交流できる機会を作っています。

これまでの成果

活動開始当初は高齢者の利用を想定していましたが、子供たちも訪れるようになり、地域の高齢者や子供たちが日常的に交流を持たれ、自然に世代間交流が図られるようになりました。

子供を通じて、学校・幼稚園との連携が密になりました。地域の方からは、作品や資料を提供していただいたり、備品として使える品物をいただいて助けてもらっています。



地域の課題

＜ 活動資金の確保 ＞

空き店舗を拠点としているため、共益費や家賃などの固定経費がかかっています。

その取組として

今後の継続に向け、無料化や家賃減額の交渉を行いつつあります。また、活動費を押さえるため、必要となる備品は、できるだけお金をかけず不用品等から集めるようにしています。また、地域の人々の得意技を活用し、移動座敷づくり、ふすま貼り、ソーメン流しの樋製作など、やれることは自分たちで行っています。

地域の課題

＜ 人材の発掘・育成 ＞

活動していくにあたり、特定の人に任せっきりにならないようにしなければと感じています。

その取組として

団塊の世代や女性の参加を促すとともに、地域内にいる絵の得意な人、工芸の得意な人等を発掘し、その人たちの作品の展示を行うようにしています。この取組が、住民の生きがいづくりや住民間の交流につながればと考えます。

地域の課題

＜ 活動の充実 ＞

お年寄りの方が参加しやすい工夫も必要ではと考えています。

その取組として

お年寄りの意見を聞きながら、血圧計、フットマッサージャの健康器具を設置し、立ち寄りやすい環境をつくりだしています。



【古い浴衣等でぞうりを作る教室】



【七夕祭りでの素麺流し】

連絡先 : 相生地区まちづくり協議会 TEL 0791-23-7130 (相生市市民福祉部まちづくり推進室) FAX 0791-23-7137

8 新温泉町久斗山地区 16年度採択



活動テーマ

地元農産物を使った特産品の加工・販売

地区の概要

久斗山地区は、栃の実、サンショウなど恵まれた多くの地元農産物を使った特産品を開発・製造・販売するため、農産加工組合を設立。広場事業により、廃校となった小学校を農産加工施設として整備しました。

古くから久斗山の家庭で作られる栃もち、佃煮や漬物等を製造し、「久斗山の味」として県内外のイベント等で、販売、PRを行っています。

調理室に集まって作業や雑談をすることで、地域コミュニティの活性化が図られ、また、販売収入があることにより住民の生きがいがづくりと持続的な活動の展開につながっています。

これまでの成果

多くのイベントに参加して栃もちや佃煮、漬物等の久斗山の特産品を製造販売出来るようになりました。その結果、年々販売量が増加したことで、地区の高齢者からの材料提供も増え、地産地消につながっています。



地域の課題

＜ 活動資金の確保 ＞

活動が継続していけるように、工夫していかなければなりません。

地域の課題

＜ 人材の発掘・育成 ＞

元気な地域づくりに向けて、もっと多くの人に参加して頂き、指導者にもなって頂きたいと考えています。

地域の課題

＜ 交流人口の拡大 ＞

久斗山地区の交流人口を増やし、訪れてみたい地域にしていきたいと考えています。

その取組として

特産品の販路の拡大、売上金の積立を行っています。また、体験教室等の開催では、参加者より参加料を徴収しています。特に草木染めなど参加者が持ち帰るものについては、自己負担をお願いしています。

特産物の販路の拡大に努めるとともに、事業参加費等徴収するなど、コミュニティ・ビジネスとしての展開を試みています。

その取組として

みんなで考え、みんなで指導出来るよう頑張っていくとともに、指導者研修会等の実施も行っていきたいです。

その取組として

地域みんなで交流を広げていくため、特産品を多く販売したり、体験教室等を実施しています。その結果、活動の活発化にもつながっています。



【体験教室】



【体験教室】

連絡先 : 久斗山農産加工組合 TEL / FAX 0796-85-0030 (組合長・中村寿弘)

おおよま
9 篠山市大山地区
17 年度採択



活動テーマ

コミュニティ・キッチン「結良里(ゆらり)」で伝統料理

地区の概要

旧 JA 大山支所の施設を活用して、住民が気軽に集えて、笑顔があり、地域に自信がもてるよう、コミュニティ・キッチン「結良里」をオープンしました。

活動の指針は、①事業終了後も維持管理費が捻出できる活動とすること、②既存の施設と競合せず、互いに連携が取れる施設とすること、③活動場소가少ない女性グループが活躍できるようにすること、として地域ビジネスに取り組んでいます。

これまでの成果

コミュニティ・キッチン「結良里」では、地域の伝統料理の普及や、地域住民の交流を目的として、地域の食材を使って、「とふめし」などの伝統料理、地元の山の名を商品名にしたお菓子を生産し、「結良里」やファーマーズマーケットで販売しています。調理・接客は、地区内の婦人の方々に、交代で担当していただいております。手作りの運営を行っています。

その結果、「結良里」で行われる「ふれあいキッチン」や「ふれあい喫茶」には、年間約 7,500 人が訪れています。



地域の課題

＜ 活動資金の確保 ＞

5年間の広場事業による助成終了後も活動が継続できるよう、地域独自の資金確保の取組や工夫が求められます。

その取組として

コミュニティ・キッチンと位置付けた活動で、各種地域団体へ、手頃な価格の弁当を仕出ししたり、ファーマーズマーケットや各種催しで、商品化した伝統食等を販売しながら活動が継続できる経費を確保しつつあります。

地域の課題

＜ 人材の発掘・育成 ＞

継続的な事業実施に向けて、リーダーを養成していく必要があります。

その取組として

調理作業が日々計画に沿って、グループごとで行われています。その作業過程で、それぞれのメンバーが、リーダーとしての役割を認識して頂いている。同時に、新しいメンバーへの現場指導も行われています。

地域の課題

＜ 活動の充実 ＞

地域の活性化のためには、いろいろな人に参加いただかなければならないと感じています

その取組として

比較的地域活動への参加が少なかった高齢女性を中心に、活動を計画し、継続的な活動となり、女性の活力が間接的に地域を元気にしています。



【コミュニティ・キッチン「結良里」】



【ふれあいサロン】

連絡先 : 大山地区郷づくり協議会 TEL / FAX 079-596-0001

しとおり
10 南あわじ市倭文地区
18 年度採択



活動テーマ

食の安全をテーマにした交流イベントの開催

地区の概要

淡路島の農産物を通じて、農村地域と都市地域とのイベントを実施し、互いにふれあう機会を持つとともに都市と農村の相互理解・相互交流を図っています。

また、「食の安全」をテーマに世代間・地区住民間の交流イベントや料理教室、食の安全セミナー、「食」を基調とした地域マップ作成等の活動を展開しています。

これまでの成果

「食の安全」をテーマにした交流イベント等を実施することにより、世代間の交流が深まり、地域の活性化につながっています。

淡路島の農産物を通じて、神戸市多聞東地区との交流イベントを開催しました。全3回の交流イベントには延べ300名以上の参加があり、淡路の食、環境の良さに都市部の参加者からは「来年もやってほしい」などの声も多く好評で、農村と都市との住民交流を深めることができました。



地域の課題

< 人材の発掘・育成 >

運営事務局のスタッフが少ないため、活動運営の新しい取り組みができず、また、積極的になく自主的な活動につながっていません。

その取組として

研修・教室等を行う際、できるだけ地域の人に講師になっていただいています。役員は必ず各活動に参加しています。また、活動を行う際には参加者各人が何らかの役割を担うようにし、次への人材づくりとなるように配慮をしています。

地域の課題

< 活動資金の確保 >

資金確保の取り組みは行っていないので、今後検討していきたいと考えています。

その取組として

活動してきた広場の組織を継続させ、地域で話し合いを十分に行い、利用者による会費徴収等の運営に工夫を凝らしていきます。また、コミュニティ・ビジネスも考えていきます。

地域の課題

< 情報の発信 >

活動の情報を発信していくことが大切であるとと考えています。

その取組として

ひろばの情報を紙媒体にして、地区に配布できるようにしたいです。



【交流イベント：箱ずしづくり】



【交流イベント：かかしづくり】

連絡先 : 倭文ふれあい広場地域推進委員会 TEL / FAX 0799-46-0109